

「株式会社 姫路シティ FM21」

第44回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成23年5月21日(土曜日) 午後2時00分～午後4時00分

2. 開催場所 姫路商工会議所 会議室

3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 8名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

有馬 妙子	岩成 孝	梅宮 功	大谷 昭仁
鎌田賢太郎	衣笠 愛之	土井 亮祐	宮本 節子

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

井上 重義	岸田 直美	柳谷 郁子
-------	-------	-------

5) 会社側出席者氏名

白井 正敏	(専務取締役 放送局長)
黒田 俊雄	(営業部長)
小幡 博	(営業企画 課長 兼 放送総務 課長)
小林 寛幸	(放送総務部編成制作担当)

4. 議題

(1) 委嘱状交付

3月末で任期満了となったため、新たに委嘱状を交付した。

(2) 会長選出・副会長指名

委員の互選により、大谷昭仁委員が会長に選出された。

大谷会長より、副委員長に宮本節子委員が指名された。

(3) 放送局長挨拶

委嘱状をお渡しした方には2年間の任期となる。よろしくお願ひしたい。FMゲンキは10年を迎える。認知度もたかまり、各企業・団体からもFMゲンキ活用の話をいただいている。唯一の地元ラジオ局としての価値が高まっている。しかし、他のメディアと比較すると、経験・実績ともに乏しく、真価を問われるのはこれからである。番組については生命線である。委員の皆さんからは様々なご意見をいただき、反映させたい。

(4) 資料説明

大谷会長所用につき、宮本副会長が代行する旨説明。了承。
事務局より資料説明。

(5) 意見交換

- 委員 GENKIラジオクラブ交流会では面白い意見などは無かったのか？
- 事務局 ボランティアスタッフは通常は録音番組しか作っていないが、「生放送にもチャレンジしてみたい」という声があった。FMゲンキとしても、取り入れていきたい。
- 今回の震災を通じて、「ラジオクラブは大切だな」と再認識した。通常の業務はプロスタッフが行なっているが、災害時に身近な情報を知るためには、あらかじめ顔見知りの方が市内や周辺にいて、そこから信頼できる情報をもらうことが大切だと感じた。
- 委員 大学との関係は深化しているように思うが、高校や中学校に対してFMゲンキを知ってもらうような活動は行なっているのか？忙しいので難しいかもしれないが、そこからリスナーが増える可能性もある。
- 放送局長 実施しているものもある。
- 事務局 香寺高校では毎年職業人座談会を行なっており、例年お声がけをいただいている。本年は白井局長が参加し、20人ぐらいの生徒さんを対象にFMゲンキの説明をしてきた。
- 若い世代にラジオ局があるということを知ってもらうことは大変重要。通常番組のなかでも「いちばん星」として、中学校や高校に取材にしている。そこでインタビューをして放送をしたり、フリーマガジンに掲載している。これらの活動を通じて「ラジオってこういうことをしているんだな」と知ってほしいと考える。年間だと数百人の人数なので、そこから口コミで広がることも期待している。また、「GENKIキッズパーク」では、保育園や幼稚園に行っている。番組の内容としてはまずいかもしれないが、スタッフにはそこに居る子供たち一人一人に少しでもいいから全員にインタビューするようお願いしている。それで、親や祖父母に広がることを期待している。一石六鳥。シルバー世代も大事なものはもちろんだが、それ以上に若い世代も大事。
- 放送局長 先日回っていたら、衣笠委員が地元の小学校で農業指導をしていると聞いた。そのような情報も教えてほしい。先ほどトライやるウィークにつ

いての説明があったが、中学生に対しても参加・体験していただけるように努めている。

委員 災害時について。自分のラジオを持って逃げるできない人も多かったということだが、私たちの街にも山崎断層がある。ラジオの備蓄も必要だという話も出ている。ここに配布するのではなく、自治会で保管しておくという話もある。備蓄と言うことも視野に入れてはどうか？

小幡課長 備蓄しておかないと、災害時には売り切れとなる。ゲンキでも備蓄していきたいと考えている。

委員 直後にネットやお店で確認したがまったく無くなっていた。売れ筋と思われる手回し充電ラジオはまったく入手できなかった。

委員 FMゲンキとして自治会に依頼してはどうか？

委員 自治会としては動きは無いのか？

委員 検討課題としては上がっているが、具体的な動きまではしていない。自治会として合併記念があるのでラジオを配ろうかという話もあるが、賛否両論。意見の集約が難しい。

委員 公民館や県民交流広場などで普段から使える状態が望ましい。

委員 私の住んでいるのは城西校区だが、PTA中心に夏休み、親子で体育館に泊まるという体験会を考えているようだ。避難訓練だけでなく、実際被害にあったときに屋外でどのような生活が待っているかを体験することを考えている。今回の災害を受けて色々な面が進み始めたと感じている。

委員 資料にある「課題」について。課題は克服して行っていただきたい。発電所が山上にあるというリスクについても、市と話し合っただけで対応していけばよいと思う。災害時でもしっかりとしたスタジオを確保して放送できる体制をつくるほうが、市民にも役に立つ。

小幡課長 5月に姫路市（広報課・消防局・危機管理室）と話し合いをもった。その後、姫路市でも検討を進めてくれていると聞いている。FMゲンキにおいても、自家発電の増強などを考えている。

委員 地下2階を地上に上げられないのか？

小幡課長 地下に電気系統があるので、イーグレと同じ。管理会社も発電機が6時間しか持たないなどということなので、対策が必要。

委員 ライブカメラについて。Ustreamからつなごうと思ったがリンクが下のほうで見つけにくかった。

事務局 Ustreamのリンクはなかなか難しい。

委員 姫路城のライブカメラが面白い。あれは難しいのか？

事務局 大変簡単です。

委員 観光地などでもライブカメラを行なっているところがある。

事務局 FMゲンキでも実験的に色々やっていきたいと考えている。市街地であれば、Wimaxをつかえば、公開収録などでライブカメラを使える。もう一つの使い方として、イーグレと送信所をつなぐ緊急用の回線として使える。災害時は難しいと思うが、平时に機器トラブルが起こった場合は、対策の一つとして活用できるはず。

委員 現段階だと災害時にイーグレが使えなくなったら送信所に行くと言うことだが、情報収集はどうするのか？携帯で情報を収集するのか？

事務局 携帯電話が使える場合は大丈夫だが、使えなくなったら難しくなる。災害時は、市役所に社員を派遣して、情報収集に当たる。携帯電話をそのまま放送に載せるためには装置が必要なので、送信所からの放送となれば、一旦原稿にして放送することになる。消防局と危機管理室には、緊急用の放送装置が設置されている。しかし、その回線はイーグレひめじに一旦きているの、イーグレが使えなくなったらその装置も使用できなくなる。本当にだめになったら、社員が市役所に行って情報収集をし、市役所の屋上などにいき、送信所で話を聞いて原稿にする。災害時は携帯も使えなくなるので、防災無線の受信機を借りる、小電力の無線をあらかじめ準備するという対策も必要だと考えている。

放送局長 消防との話もしているが、携帯が使えないときは行政無線を市から提供いただくということも可能と聞いている。今のところ、年1回、1月17日に緊急放送装置を使った訓練をしている。あとは、自家発電装置を使っての放送訓練なども実施する予定である。送信所からの放送訓練にも取り組む予定である。

委員 送信所に歩いて登る練習も必要ではないか？

事務局 燃料を持って登る練習も必要だと思っている。今まではイメージの段階であったが、現実化する必要がある。

委員 太陽光発電の可能性は？

事務局 UPSに接続して活用する考え方は十分にあると思う。現時点では、テントを買って、それを送信所にたてて放送するという形。意外にイーグレひめじのスタジオを風水害などにより放棄せざるを得ない可能性も高いのではないかと考えている。

委員 イーグレのスタジオは重装備だから、電力も必要。数時間でできたあとどうするのか、しっかり考える必要がある。実際に必要なものは準備すべきである。

事務局 色々な可能性が考えられる。風水害は毎年起こる可能性がある。イーグレから送信所に行こうと思うと、市川に橋があるが、橋の本数は限られている。それをどう越えるかというシミュレーションも必要。電波が入る・入らないではなく、災害時にまったく役に立たなかったということになれば、FMゲンキという会社がなくなってしまう可能性もあるのではないか。何が何でも何かをしないといけない。イーグレには自社の発電機をもっているが、それは数十時間動くようなものではない。1台30万、2台60万するが、それは会社として買わないといけないものである。ただし、燃料はビルの中で持つことが出来ないので、姫路市さん支援をお願いしますということである。

委員 緊急時に市の職員を派遣していただくという考えはあるのか？

事務局 現状は職員を派遣していただくということは考えていない。

白井局長 パーソナリティのうち、比較的近隣に居住するパーソナリティ4名はとくに万が一の時は協力してほしいと依頼している。話し手はプロである必要がある。消防局の中には、訓練などでアナウンスをしている人がいるので、その方が消防局側から当たっていただければと思う。

委員 広報課には？

事務局 推進委員さんはWINKでレギュラーがあるので、慣れていると思う。消防局や危機管理室も、週2回電話出演のコーナーがあるので、慣れてい

る。逆に、慣れていないのがFMゲンキの社員・役員という可能性がある。放送業務は、ディレクターやパーソナリティが担当しているが、営業社員は放送業務をまったく行なわない。しかし、いざというときには出社する。災害時で停電している中で、マニュアルを探すことなど不可能。無意識でも使える状態になる必要がある。多くのコミュニティFMは分業していないので、だれもが普段から番組を担当したりしているので、対応できることが多い。

委員 播磨大地震でも津波が起こったと伝えられている。それ以前の文献は残ってないそうだ。

委員 市からも想定の見直しという話がでてきている。これまでの津波の想定では対応できない。

委員 災害に取り組む自治会を取り上げる番組は無いのか？

事務局 過去に自治会が出演する番組はあったが、現在は無い。

委員 今は盛り上がっているが、半年もたてば忘れられてしまう。継続的に意識を高める取り組みが必要。

事務局 日々の放送では1日4回、消防局・危機管理室からの情報番組がある。季節ごとに、風水害や熱中症、アルコール中毒などと内容が変化している。

委員 地域ごとに取り上げていけば、そのエリアの人も聴いてくれるのではないかと。それをネット上にプールできればさらによい。

委員 姫路市でプロの農家があつまって情報を発信しようと考えている7月18日にプロがプランターで野菜を作ろうと今からチャレンジしている。そのような人たちを取り上げていただくような機会があれば。

事務局 ぜひ推薦していただきたい。FMゲンキで「飛び出せ!まちの元気人」のブックング枠をもっているのだから、どんどん教えていただきたい。平日であれば取材対応も可能である。信州のラジオを聴いていると農業と連動している番組がある。農協が提供して、季節の話が流れている。

委員 神河町などに行けば、詳しい天気予報をCATVで流している。

事務局 そういう部分では、情報が進んでいる。

- 委員 周波数を知ってもらうために、FMゲンキの周波数がわかるシールなど、なにかあればいいのだが。ふっと思い出せないときがある。
- 事務局 ラジオが直面する一つの問題が周波数だろう。テレビは選局ボタンで何も考えずにチャンネルを選べるが・・・。
- 委員 ラジオも自動選局があるものもある。
- 衣笠委員 先日試した時は、FMゲンキで止まってくれなかった。
- 委員 公民館などで音が小さくてもいいので常に流れている状態であればいいのだが。インドネシアに調査に行った時、あらゆる場所や役所でテレビがついていた。日本だと考えられない。帰ってきてすぐ地震があった。インドネシアはスマトラ地震以降、常に放送をつけっぱなしにして情報を入手しているのではないか。昔は朝起きたらラジオをつけていた。講義でも紹介している。今テレビを見ている瞬間にぐらっときたら、テレビのチャンネルを変えるか？ラジオを聴くかと聴いたら、そのままのチャンネルにするという人が多い。字幕もでるが、テレビならNHKを見たほうが詳しい。NHKは地震があれば通常放送を休止するという話をしたら、ほとんどの学生は知らない。大人は当たり前と思っていることが、若者は知らない。若者は聴いてないんだと思っているだけではダメである。災害時はNHKも入るが、FMゲンキでも細かな情報を伝えるということをしてPRすべき。
- 委員 開局10周年に当たって、FMゲンキが考えていることを全戸配布してはどうか？
- 白井局長 GENKIラジオ新聞を配布するので、その中でFMゲンキの考えも載せてはどうか。
- 委員 自治会などで避難訓練をする時にラジオをつけようなどとPRすることはあるのか？
- 委員 そこまで行っていない。
- 事務局 校区単位での避難所運営訓練では、訓練地震の発生などをFMゲンキから放送していた。それを学校などで受信して放送していただいていた。
- 委員 ラジオを持っているか？といった調査は？

- 事務局 放送が良いのは、一箇所から発信したら大人数に発信できる。ネットは大人数がアクセスすると速度低下が起こったりする。
- 委員 間違いやデマも多いと聞いているが。
- 委員 震災直後はすごかった。チェーンメールやツイッターなどで学生はほぼみんな情報を受けている。内容はもっともらしいが、それを何も考えずに拡散している。女性はかなり受け取っているのではないか。主婦など。
- 委員 学校の先生から送られてきたという話もあったようだ。
- 委員 そのようなこともあるので、放送が大切。それを周知していかないといけない。
- 事務局 その中で、公式の情報が迅速に発信していくことが大切。FMゲンキでもラジオだけでなく同じ情報をネットなどからも発信できるように研究している。
- 委員 今は1つのメディアだけで発信するというだけでは、周知できない。あらゆる手段を使っていかないといけない。システム化して取り組むべきである。
- 委員 姫路だけのエリアの情報を取りたくても、なかなか入手できない。FMゲンキならそのエリアだけの情報を取れるというところにメリットがある。
- 委員 WINKさんはFMゲンキの宣伝をしてくれているのか？
- 事務局 互いのPRはスポットCMとして行なっている。
- 委員 なにか協定できるといいのだが。
- 事務局 CATVとコミュニティFMを両方されているところがあるが、なかなか難しい部分があるようだ。選挙速報にしても、CATVは画面をご覧下さいで終わるが、ラジオはすべて読み上げないといけない。
- 委員 今回の震災でも、NHKのラジオとテレビを聞き比べると、その違いがわかる。ラジオは事細かにすべて描写して伝えてくれる。運転中はラジオのほうがはるかに明快である。

午後4時00分、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成23年6月22日

公表内容 審議の概要

公表方法 自社放送6月25日22時30分～23時00分「GENKI傑作選」内
事務所据え置き、ホームページ (<http://www.fmgengi.jp>)

以上